

ごあいさつ

長崎大学 学長

片 峰 茂

Katamine Shigeru

(取組代表者)



平成21年度から長崎県内で薬剤師と看護職の養成課程を持つ国公立の3大学（長崎大学、長崎県立大学及び長崎国際大学）は、関係職能4団体（長崎県薬剤師会、長崎県病院薬剤師会、長崎県看護協会及び長崎県医師会）及び長崎県と連携し、「長崎薬学・看護学連合コンソーシアム」を組織して、「在宅医療と福祉に重点化した薬学と看護学の統合教育とチーム医療総合職養成の拠点形成」事業をスタートいたしました。本事業は、地域の複数大学が連携・協同して地域と一体となった人材養成を目指す文部科学省のプログラム「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム（戦略GP）」の一環として展開してまいりました。

わが国の医療体制においては、超高齢社会の急速な進展に伴い、在宅医療のニーズが今後益々高まることが予測されており、地域におけるチーム医療体制の整備が急務となっております。特に長崎県は、病院・診療所の数や病床数が全国で最も多い県の一つであることから、在宅医療の普及が課題となっており、在宅医療を支える専門人材の育成や環境の整備を推進する必要性が高い地域の一つです。

そこで、連携3大学では、それぞれの教育資源の利点を活かした在宅医療・多職種チームケアに関する共同授業・合同実習を実施し、それらを長崎県内の13大学が参加している大学間単位互換制度（NICE キャンパス長崎）へ科目登録し、大学間連携教育の実質化と質保証を図るとともに、大学と地域の関係団体等が連携する生涯学習を通して、薬剤師や看護職をはじめとする医療従事者が最新の在宅医療・多職種チームケアを統合的に学べる機会を支援してまいりました。本取組は、在宅医療の現場で患者が必要としている様々なケアに対応できる実践的な臨床能力を、大学教育から生涯学習と継続性を持って学べるプログラムです。

本取組を開始して3年目を迎えます平成23年度は、戦略GP事業の最終年度にあたります。連携3大学では本コンソーシアムの活動をこれからも継続していくことを計画しておりますが、この度、文部科学省の支援を受けて取り組んだ3年間の成果を報告書にまとめました。

本取組に快く協力していただきました患者さんやご家族の皆様をはじめ、本プログラムの実施を支えてくださいました学内外の関係者各位に衷心より感謝の意を表します。

片 峰 茂

